

# サンコール、EV部品強化

## 亀岡に電流センサー拠点

サンコールは4日、電気自動車(EV)の電流計測センサーを開発、生産する新拠点を亀岡市内に建設すると発表した。世界的な自動車のEV化を見据え、主力の自動車用ばねに続く柱に育てる。

### 独に販売子会社設立

京都縦貫自動車道篠原団地内に9400平方メートルの用地を取得した。2024年秋の稼働を予定する。土地代を含む投資額は約12億円を見込む。



サンコールが開発した磁気式の電流センサー。同センサーは、数点の少ない部品で構成

できるため、集積回路「う従来のセンサーに比べ(IC)など数十点を使」べ、世界的な部品不足

の開発生産する。サンコールは今月、

ドイツ・ミュンヘンにEV用電流センサーの販売子会社も設立した。欧州に自社拠点を開設するのは初めて。

また、電位差で電流を計測する「シャント方式」と呼ぶ独自開発のセンサーも新拠点で開発生産する。

（森静香、柿木拓洋）

## 配電部品も増産 **インサイド**



サンコールは、ガソリン車のエンジン部品などが主力だが、今後急速な品ぞろえの拡充を急いでいる。EVシフトに合わせて電流計測センサーとともに強化しているのが、配電部品の「バスバー」だ。国内の大手自動車メーカーを中心に採用が広がっていることから、熊本県菊池市の拠点で設備投資を行い、生産能力を現在の2倍に引き上げる。

バスバーは、銅など金属製の導体棒。蓄電池とインバーター（電力変換器）などをつなぎ、大きな電流を流すことができる。これまで愛知県豊田市の工場で生産してきたが、熊本の工場に新たな製造ラインを整備するとともに製品保管用の倉庫を新設する。投資額は約4億円。

26年3月期にバスバーの売上高を足元の2・7倍となる約40億円に伸ばす計画。大谷忠雄社長は「世界のEVシフトは予想を上回るスピード。バスバーを含むEV関連製品の販売を強化する」と事業構造改革に意欲を示す。（柿木拓洋）